

## (5) 助けが必要なとき

### 緊急事態で助けが必要

1. 部屋に閉じ込められたとき
2. 倒れた家具や壁の下敷きになったとき
3. ケガ人や急病人が出たとき



外部に知らせる努力をする。

赤等の有色タオルを、テラス、ベランダの柵に縛り付ける。

### 避難するには助けが必要 \*1

1. 自力では避難できない。
2. 介助の必要な家族がいる。



情報チームに、助けが必要なことを知らせる。

(隣近所に知らせて、伝えて貰う、又は知り合いに電話する、など)

\*1) 常日頃、階段役員に援護が必要なことを伝えておいてください。  
または、災害時要援護者の届を民生委員に出しておくといいでしょ  
う。

★ 外部からの助けが必要なときは次の二つの行動をしてください。

1. 玄関の扉の外側に、配布してある「安否連絡カード」を貼ってください。
2. 3号館、4号館の場合は、芝生広場側、1号館は南側、2号館は北側のテラスに赤い（無ければ白色以外の目立つ色の）布を縛りつけてください。白色の布は、「助けは必要ない」ことを意味します。

★ 救援活動を迅速に行うために、日頃から自治会の階段当番に、家族構成、お年寄りや乳幼児について知らせておいてください。

★ 一人住まいで、倒れた家具や壁の下敷きになった場合、助けの必要を外部に知らせることは難しくなります。大声で知らせる、笛を鳴らすなどをしながら、近所の人気付いたり、情報チームが各住戸の安否の確認に来たりするのを待つこととなります。

★ 安否確認のため、止むを得ず扉やガラス戸を破壊するなどして、支援チームなどが住戸内に立ち入ることがあります。外出していて誰もいなかったのに、扉やガラス戸が壊されるということも考えられますが、これは容赦してください。